

## 健康社会研究センター ニュースレター 第4号

2010.08.09 発行

発信元：健康社会研究センター <http://cws.umin.jp/>

名古屋市中区千代田5-22-35

日本福祉大学 名古屋キャンパス北館7階

Tel:052-242-3074/Fax:052-242-3076

---

---

### ◆ 目次 ◆

- 1 最近のプレスリリース
  - 2 主な研究成果
  - 3 新聞記事掲載
  - 4 社会疫学・健康格差に関連するシンポジウム・セミナーのお知らせ
- 
- 

## 1 最近のプレスリリース

### 高齢者の孤立解消で6万人程度の要介護・死亡を改善できる可能性あり

(2009年7月5日更新)

愛知県の6自治体で2003年に、健康な65歳以上の高齢者を対象に郵送調査を行い、その後4年間にわたって要介護および死亡に至ったかを追跡した。その結果、年齢や治療疾患の有無などに関わらず、もともと孤立しがちな高齢者の方が約1.3倍ほど要介護状態に、約1.2倍ほど死亡に至りやすくなっていた。そのうえで、全国高齢者に対して推計したところ、孤立していることによって、2.5万人程度の高齢者が要介護に、3.1万人程度の高齢者が死亡に至っている可能性があることが示唆された。

〈詳細はこちら〉 <http://cws.umin.jp/press-releases/index.html>

## 2 主な研究成果

### ◆ インタビュー記事

・近藤克則「社会環境が健康に及ぼす影響とは」, 健康保険 (7) : 58-61, 2010.

### ◆ 近藤克則「日本におけるソーシャルキャピタルと健康」

公衆衛生セミナー：日本における健康の社会決定要因 (The Osaka public health symposium: social determinants of health in Japan) 開催

(大阪大学大学院医学系研究科「医科学修士健康医療問題解決能力の涵養教育プログラム」と University London College Department of Epidemiology and Public Health との共催セミナー)

【日 時】2010年7月20日(火)～22日(木)

【場 所】大阪大学吹田キャンパス 銀杏会館

### ◆ 近藤克則「高齢者のwell-being (幸福・健康)における格差」

社会格差と健康に関する市民公開シンポジウム

「健康の社会格差—今、多様な知を結集し、すべての人々に生きやすい社会を」

【日 時】2010年7月30日(金) 13:00～17:00

【場 所】日本学術会議講堂

### ◆ 近藤克則「高齢社会を乗り切る地域の力 —ソーシャルキャピタルの可能性—」

・社会疫学シンポジウム in 沖縄 シンポジスト

【日 時】2010年7月31日(土) 18:00～20:00

【主 催】文部科学省所管(財)生存科学研究所

【共 催】琉球大学医学部付属病院専門研修センター

### ◆ 平野隆之・伊藤美智予・他「高齢者施設ケアのマネジメント」

・日本福祉大学夏季大学院公開ゼミナール「現場の分析力を高める質的調査」

---

---

分科会「高齢者施設ケアのマネジメント」  
【日 時】2010年7月19日

---

### 3 新聞記事掲載

【指定研究関係】

- ①「介護サービス質評価」琉球新聞，2010年7月20日（火）  
（他，神奈川新聞7月26日，熊本日日新聞7月23日，福島民報7月18日）
- ②「つなごう医療 28 低所得者に医療費重く 広がる健康格差」中日新聞（朝刊），2010年7月13日
- ③「趣味は認知症防ぐ？10万人調査」朝日新聞（夕刊），2010年7月10日（土）
- ④「介護予防の効果検証」日本経済新聞（夕刊），2010年6月30日（水）
- ⑤「導入4年介護予防事業 優先する内容調査へ」中日・東京新聞，2010年6月17日（木）

---

### 4 社会疫学・健康格差に関連するシンポジウム・セミナーのお知らせ

・国際シンポジウム「21世紀型の新たな皆保険制度—日本の保健システムを再考する」

【日時】2010年9月1日（水）9時～18時15分

【場所】グランドプリンスホテル赤坂 五色1階「新緑」

東京都千代田区紀尾井町1-2 [→アクセス](#)

【主催】（財）日本国際交流センター・ランセット

【後援】朝日新聞社・外務省・厚生労働省

【使用言語】日英（同時通訳）

【参加】無料・要事前申込・定員300名

【プログラム】 [《詳細はこちら》](#)

<開会セッション>

（モデレーター）山本 正（財）日本国際交流センター理事長

<問題提起>

武見 敬三本国際交流センターグローバルヘルスと人間の安全保障シニアフェロー，海大学政治経済学部教授

<基調講演：「医療制度改革に求められる視点—オバマ改革を踏まえて」>

ハーベイ・ファインバーグ 米国医学研究所（IOM）理事長

<セッション1：新たな医療ガバナンス—実証に基づく政策に向けて>

（モデレーター）リチャード・ホ顿 『ランセット』編集長 [英国]

我が国の現状と課題：尾形 裕也 九州大学医学系学府医療経営・管理学教授

渡辺 俊介 東京女子医科大学医学部教授；元日本経済新聞論説委員

我が国への処方箋：クリスファー・マレー ワシントン8大学保健指標・評価研究所所長 [米国]

マイケル・ライシュ ハーバード大学公衆衛生大学院国際保健・人口学教授 [米国]

<セッション2：高齢化社会における皆保険制度と財政>

（モデレーター）マイケル・ライシュ ハーバード大学公衆衛生大学院国際保健・人口学教授 [米国]

我が国の現状と課題：池上 直己 慶應義塾大学医学部医療政策・管理学教室教授

小塩 隆士 一橋大学経済研究所教授

我が国への処方箋：ボン・ミンヤン ソウル国立大学公衆衛生大学院経済学教授 [韓国]

江 東亮 台湾大学公共衛生学院院長

デビッド・エバンス 世界保健機関（WHO）保健システム強化資金調達部長

<セッション3：地域医療の将来：医療の質、格差、そして人材>

（モデレーター）ハーベイ・ファインバーグ

我が国の現状と課題：橋本 英樹 東京大学大学院医学系研究科臨床疫学・経済学教授

近藤 克則 日本福祉大学教授

伴 信太郎 名古屋大学総合診療医学教授

我が国への処方箋：ステファーン オックスフォード 大学経済学教授 [英国]

ピエール・マキニョ 医療の質向上担当室長 [フィリピン]

---

**<セッション4：我が国のグローバル・ヘルス戦略>**

(モデレーター) リカーン・チェン 中国医学基金会理事長 [米国]

我が国の現状と課題： 渋谷 健司 東京大学大学院国際保健政策学教授

我が国への処方箋： 黒川 清 政策研究大学院大学教授、日本医療政策機構代表理事

井上 肇 千葉県健康福祉部理事

スウィット・ウィブル・ルプラサト タイ公衆衛生省疾病予防上級顧問

**<総括コメント>** リチャード・ホートン

---

ニュースレター第4号の発行にご協力いただきましてありがとうございました。

今後とも当センターへのご支援をよろしくお願い申し上げます。

メーリングリストの配信の停止をご希望の方・ご意見・お問い合わせはこちら  
k-manami@n-fukushi.ac.jp (泉) >までお知らせください。

ニュースレターのバックナンバーはこちら<[バックナンバー](#)>

発信元：健康社会研究センター <http://cws.umin.jp/>

(このメールは、国際シンポジウム「健康の社会的決定要因－社会疫学の可能性」(2009年3月14日開催)にてメール登録をご希望いただいた方及びメーリングリストweb登録をいただいた方に配信しています)